

# 何種類見つけたかな 葛生牧地区で 生きもの調査



水路に入って

「あー！いたいた。大きなカエルだ」「これはなんていう生きものだろう」と、稲が実る田んぼに子どもたちの声が響く。



佐野市牧地区の水路で、8月5日、地域の子もたち21人が参加した「田んぼまわりの生きもの調査」が実施された。



大きなカエルが



これは、上牧の環境を守る会（縫田重吉代表）が、生きもの調査を通して、子どもたちに生息する生きものや自然を大切にすることを育て、さらに、自分たちの住む豊かな素晴らしい環境を伝えていきたいと、毎年夏休みに行っているもので、今回で11回を数える。

当日は、午前10時から調査を開始。参加した子どもたちは、網を手に入りに、移動しながら、真剣に小さな生きものを捕まえた。

そのあとは、講師の桑島正さん（足利自然観察会）が、捕まえた虫や生きものについて説明。ホトケドジョウやチャラカゲロウの幼虫が生息したことを踏まえて、「これらの生きものがあるということは、水路付近の水はきれいだと言えますね」と話した。

この日、子どもたちが観察したのは、トウキョウダルマガエル、ミズカマキリ、タイコウチなど10種類余り。きれいな水の環境を確認し、調査後、捕まえた生きものは、元いた水路に戻した。



先生から説明を聞く